

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年10月  
枚方市立東香里中学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。

## 【全体概要】

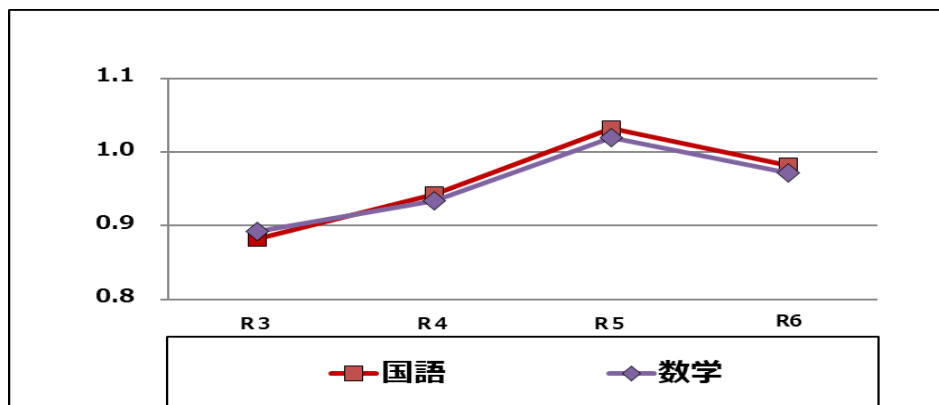
### 学力調査の結果

※調査結果について

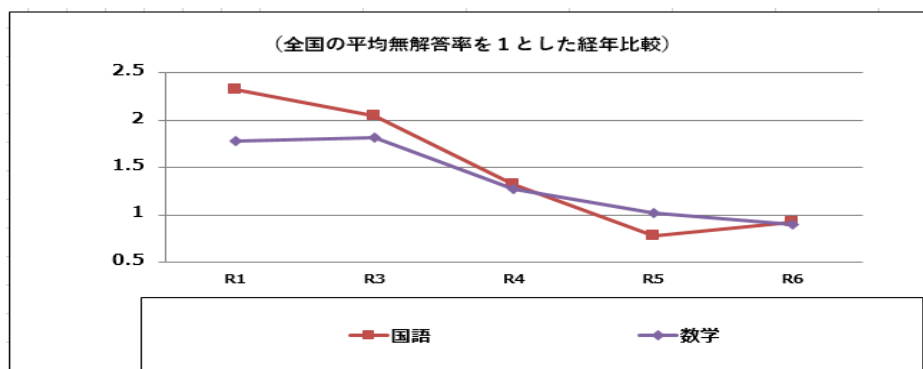
教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

### （全国の平均正答率を1とした経年比較）



### 無解答率の結果



#### 学力調査・無解答率の結果概要

##### ○国語について

→全国平均をやや下回る結果でした。無解答率は全国平均を下回り、積極的に解こうという意識が見られました。

##### ○数学について

→全国平均をやや下回る結果でした。無解答率は全国平均を下回り、積極的に解こうという意識が見られました。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

## 教科に関する調査

### <国語>

#### 【成果】

「話すこと・聞くこと」(対象問題数 3)

| 話すこと・聞くこと | 正答率  |
|-----------|------|
| 本校        | 59.8 |
| 全国        | 58.8 |

| 問題番号 | 問題の概要                              | 本校   | 全国   |
|------|------------------------------------|------|------|
| 1-①  | 話し合いの中の発言について説明したものとして、適切なものを選択する。 | 66.3 | 63.2 |
| 1-②  | 話し合いで発言する際に指し示している資料の部分として○をする。    | 73.1 | 68.5 |

#### (考察)

普段の授業で、話し合い活動を多く取り入れていることで、「話すこと」や「聞くこと」への意識が高い集団となり、「話すこと・聞くこと」の項目が全国平均を上回る結果となったものと考えられます。これからも話し合い活動を積極的に取り入れるとともに、その中で、探究的に考える発問なども増やしていく予定です。

#### 【課題】

「書くこと」(対象問題数 2)

| 書くこと | 正答率  |
|------|------|
| 本校   | 59.8 |
| 全国   | 65.3 |

| 問題番号 | 問題の概要                              | 本校   | 全国   |
|------|------------------------------------|------|------|
| 3-①  | 物語を書くために集めた材料を取捨選択した説明             | 74.6 | 81.4 |
| 3-④  | 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。 | 45.1 | 49.3 |

#### (考察)

日常的に考えをまとめたり、振り返りを記入したりと、「書くこと」については、意識して取り扱うよう取り組んでいますが、まだまだ「書く」ことに苦手意識が強いように感じます。家庭学習を含め、「書く」取り組みを一層意識して授業を進めていきます。

<数学>

【成果】

「データの活用」(対象問題数 4)

|    | 正答率  |
|----|------|
| 本校 | 57.4 |
| 全国 | 55.5 |

| 問題番号 | 問題の概要                                                              | 本校   | 全国   |
|------|--------------------------------------------------------------------|------|------|
| 5    | 2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率                                       | 82.3 | 73.1 |
| 7-①  | 障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にしたロボットについて実験した結果をもとに、進んだ距離の最頻値を求める。 | 75.5 | 74.3 |

(考察)

データ分析や活用の分野の力を伸ばす取り組みとして、定期テストを題材として、その結果の分布や代表値から、自分の得点を比較する取組を実施してきました。学習した内容を実際に活用することによる成果が出たものと考えられます。

【課題】

【課題】

「数と式」(対象問題数 5)

「図形」(対象問題数 3)

| 数と式 | 正答率  |
|-----|------|
| 本校  | 47.8 |
| 全国  | 51.1 |

| 図形 | 正答率  |
|----|------|
| 本校 | 37.3 |
| 全国 | 40.3 |

| 問題番号 | 問題の概要                                             | 本校   | 全国   |
|------|---------------------------------------------------|------|------|
| 2    | 等式 $6X + 2y = 1$ を $y$ について解く                     | 47.4 | 52.5 |
| 9-①  | 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形をつくるとき、三角形の合同を基に証明する。 | 17.7 | 27.0 |

(考察)

問題2 「文字について解く」については、理解度とともに、定着度が大きく影響することから、その度合いが低かったため、全国平均を大きく下回ったと考えられます。また、図形の分野では、基礎的内容の定着は一定進んだものの、証明のような、論理的に考察し結論を導く問題については、苦手とする生徒が多く、今後、振り返りをしっかりとしていきたいと考えています。

## 2 質問紙調査の結果

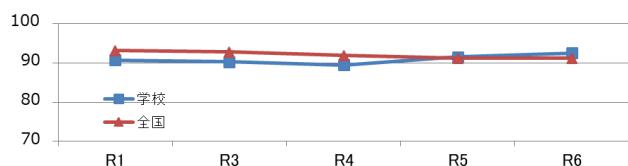
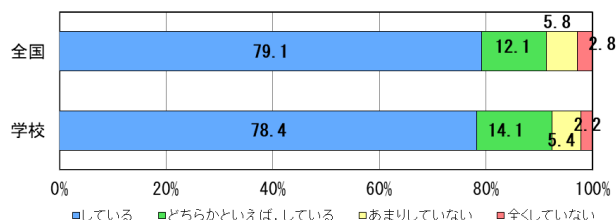
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

### 結果の見方

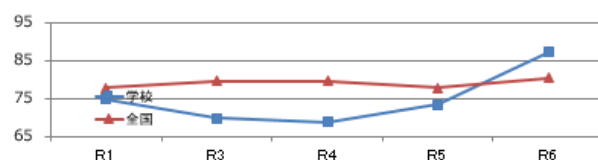
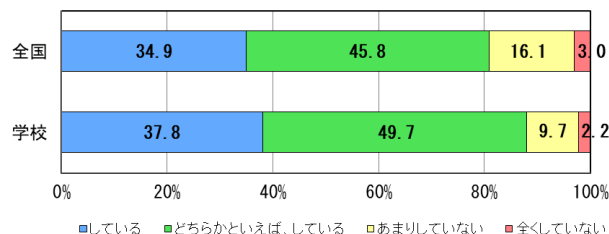
- ・各項目、2つの帯グラフは、令和6年度の全国と本校との比較です。回答は質問に対して左から「している」「どちらかといえばしている」「どちらかといえばしていない」「していない」を示しています。
- ・下の折れ線グラフは、R1年度調査からの全国との経年比較です。
- ・無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

### ○生活面

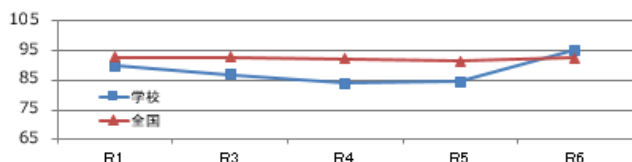
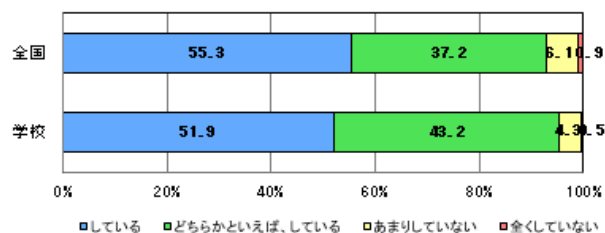
#### 朝食を毎日食べている



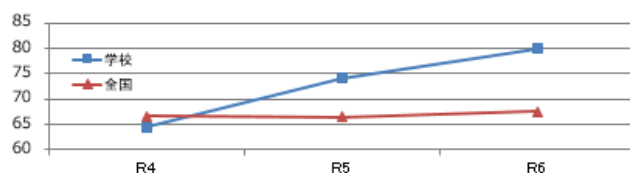
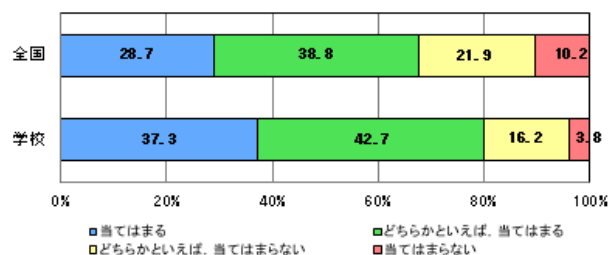
#### 毎日、同じくらいの時刻に寝ている



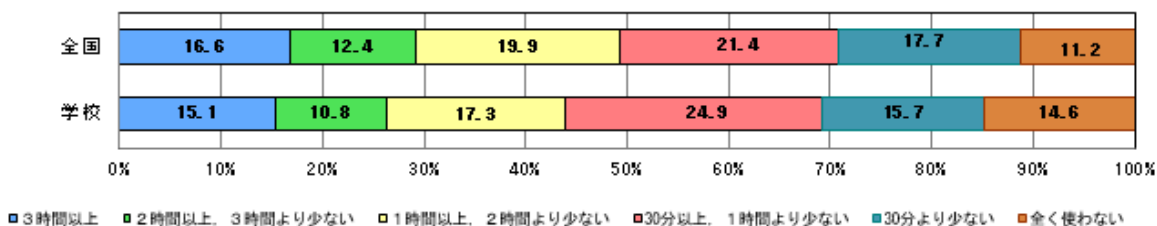
#### 毎日、同じくらいの時間に起きています



#### 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



#### 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

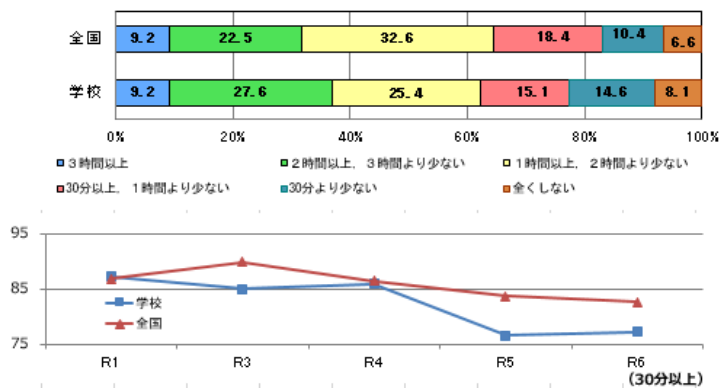


### (考察)

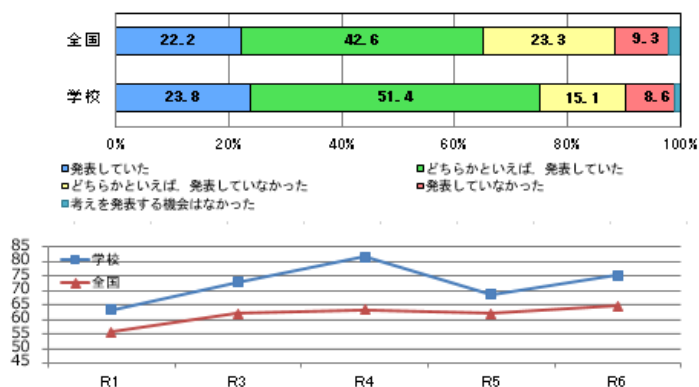
「朝食を毎日食べる」「同じ時刻に寝て、起きる」の項目が全国平均より高かったことから、各ご家庭のおかげで、子どもたちが生活リズムを崩さずにしっかりと生活できており、教職員との関係も良好な生徒が多いとみられます。また、ゲームをしている時間も全国平均より少ないことで家庭でのルールや自制心を持つことができていると考えられます。

## ○学習面

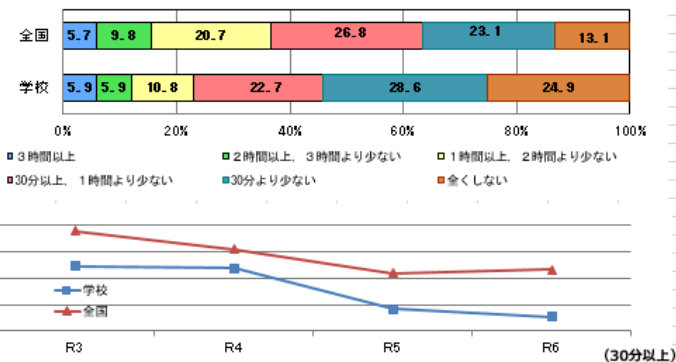
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



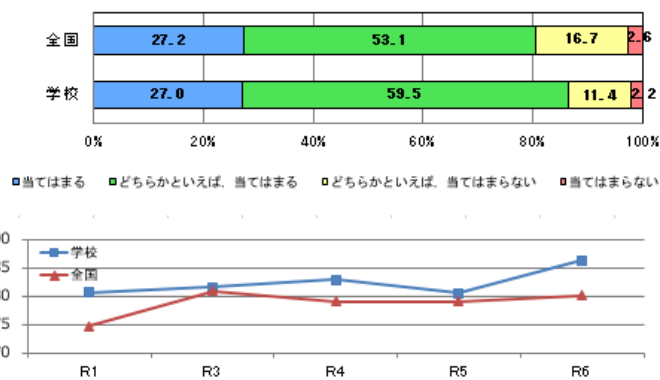
1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



### (考察)

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」  
「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、ともに全国平均を下回っていることから、家庭学習に課題があることがわかります。

「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」はともに全国平均を上回っていることから、総合的な学習の時間だけでなく、各教科でも課題解決型の授業に多く取り組もうとしていることが、子どもたちにも伝わっていると考えられます。

## まとめ ～分析結果を踏まえて～

### (1) 学習面について

教科に関する調査から、国語、数学ともに授業で工夫をしている取り組みや、内容に関しての正答率が全国平均を上回っていることから、苦手な内容や取り組み（国語は書く力、数学は計算の基礎や証明などの発展問題）の工夫を授業で取り入れていくことが必要と考えられます。

一方、無解答率は全国平均を下回り、どの問題にも粘り強く積極的に取り組もうという意識が見られているので、授業でのさまざまな取り組みの成果であると考えられます。

また、総合的な学習の時間を中心に、探究活動を取り入れるようにしていることから、自分の考えをうまく伝えたり、資料や文章の組立てなどを工夫して発表したり、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができていますので、今後も、探究活動を取り入れた学習を継続してまいります。

なお、本校では、授業時間はとても熱心に取り組むことができて一方、学校のある日、休みの日に関わらず、家庭学習の時間が全国平均を下回っていることから、授業の内容をいかに家庭学習につなげ、定着を図る工夫をできるかがポイントと考えており、そのための取組も検討してまいります。

### (2) 生活面について

各家庭のご協力もあり、生活習慣を意識して生活できています。学力と生活習慣には大きな相関関係があるといわれており、今後も継続したご協力を宜しくお願いいたします。

また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目において、全国平均を上回っていることから、これからも、教職員一同、相談しやすい環境や関係づくりを継続するとともに、細かな変化にも対応していけるよう心がけてまいります。